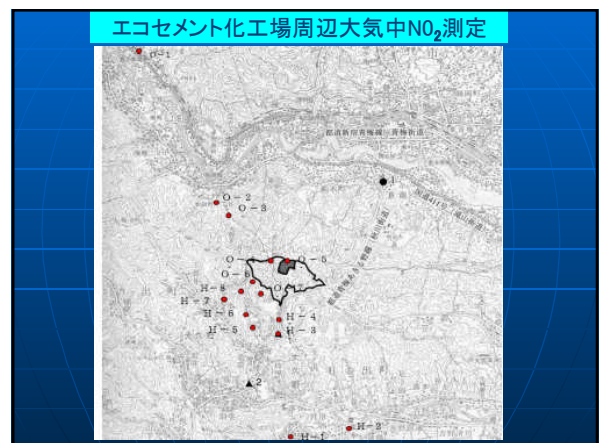
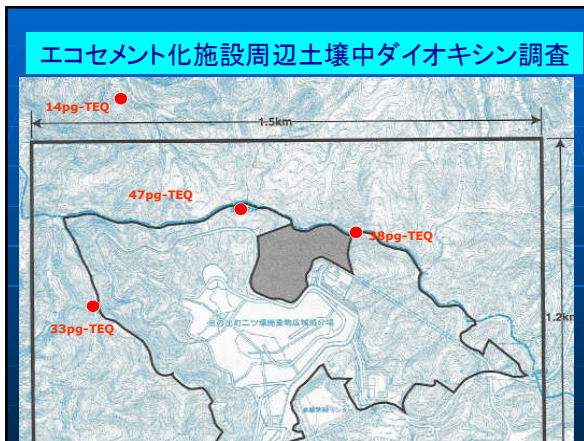


グループ名 ・代表者名	たまあじさいの会 代表 濱田 光一	助成金額	50万円
助成のテーマ	日の出町エコセメント工場からの周辺環境への影響調査		

調査研究等のテーマに関する背景説明

問題の概要	・多摩地区400万人の最終ゴミ処分場に埋められている有害物質の地下水汚染 ・都民の水源地にある処分場、エコセメント工場による多摩川水系の汚染 ・エコセメント工場からの排気による大気汚染の周辺住民や環境への被害 ・有害な化学物質や重金属の汚染による未来世代に対するの負荷	
問題の原因など	・経済重視の大量生産・大量消費・大量廃棄による国の経済政策 ・大量に廃棄されたゴミを焼却処理して埋め立て処分に立脚する国のゴミ政策 ・都民のゴミを23区は海面、多摩地区は水源地に埋め立てる東京都のゴミ政策 ・各自治体ごとのゴミ最終処分ではなく、広域的な一部事務組合による都の最終ゴミ処分政策 ・多摩地区400万人のゴミを人口1.3万人の財政破綻自治体に押し付ける行政意識 ・巨額な税金を投入するゴミ処理に群がる政・官・業・学の癒着と利権構造 ・ゴミは出してしまえばその後の処理には無関心な大多数の市民の意識	
問題の経過	・1984年日の出町谷戸沢最終処分場開場 ☆数年後処分場下流地域の地下水汚染が判明 ・1998年日の出町二ツ塚最終処分場開場 ☆住民による聞き取り調査で処分場風下集落の癌発症、死亡の国平均の約4倍と判明 ・2002年ゴミ焼却灰飛散の実態究明公表 ・2006年最終処分場の延命を目的としたゴミ焼却灰を主原料とするエコセメント製造工場処分場内で本格稼働開始 ☆2004年より稼働前、稼働後の工場周辺環境などの継続調査開始	位置関係
		・問題の起きている場所、 
争点	・国・都・日の出町・一部事務組合は、国のモデル処分場として、万全で最新の対策をしているので「絶対安心」と情報操作と住民の取り込みをしているが、裁判では、地下水や焼却灰の飛散による大気汚染は認めている。しかし、人体には特段の影響は出ておらず大多数の利益のためには受忍の限度内とし、現在は勿論、今後も問題は発生せず安全であると司法判断。被害者である住民に、実害の実証責任を求める現在の司法制度の欠陥 ・住民による癌死調査は全国平均の4倍、行政は老衰であり風聞に過ぎないと反論無視 ・環境影響評価はまったく機能せず、行政の方針を前提に調査作成も、稼働後の調査もパシフィックコンサルタントが行っており行政方針の追認を巨額の費用で請け負う独壇場 ・一部事務組合は、情報公開条例を持たずにポイントになる情報の非公開や隠匿 ・具体的、劇的、可視的な被害が出ないと動かない予防原則無視の行政意識 ・世界の7割、約1700のごみ焼却炉があり、住民や子どもたちへの影響が顕在しているにも拘わらずデータを示さない行政、伝えないマスコミ、無関心な市民	
助成を受けた調査研究等のねらい	・処分場やエコセメント工場からの周辺環境への影響の実態を、植物・野鳥・水生昆虫・水質・大気・土壌・地質などを通して継続的な調査を通して究明 ・調査の結果や地域の抱える環境問題を地域住民に提示してともに考え取り組む ・市民自ら科学的情報を得ることのできる市民科学研究所開設への取り組み	



グループ(個人)のプロフィール

連絡先など	住所・所在地	東京都青梅市日向和田 1-12-2		
	連絡担当者	濱田 光一		
	電話・FAX・携帯	0428-23-6621		
	E-mail・URL	ko_hama@fg8.so-net.ne.jp		
グループの 特色	・ 市民、生活者の視点から調査や活動に取り組む ・ 専門家や研究者の助言や協力を得ながら科学的な調査活動に取り組む ・ 調査結果の公表や公開と各地の処分場問題の市民団体との情報交換 :現在、日の出町の処分場問題での活動は、調査・裁判・市民や行政への働きかけの分野があり、相互に関連しながら問題に取り組んでいる。			
これまでの 活動経過・ 研究実績	・ 第一次調査活動 1998年～2003年 　　<ごみ焼却灰の最終処分場埋め立て時の周辺への飛散の実態究明> 　　処分場周辺の局地気象、周辺植物、処分場から飛散物質の分析などを通して焼却灰の飛散の実態を究明し、調査結果の地域住民や関係機関、市民団体への公表・公開。その後組合は焼却灰の飛散を極力抑えるようになり、日の出町の大気中のダイオキシン値が一桁下がった。市民の調査・監視が公害発生の抑止力となることを実感する。また、この調査結果は、裁判でも焼却灰の飛散を認めざるを得ない証拠となる。 ・ 第二次調査活動 2003年～ 　　<ごみ焼却灰を主原料とするエコセメント製造工場周辺の環境汚染調査> 　　2006年から本格稼動したエコセメント工場からの周辺環境への影響を、植物・野鳥・水質・水生昆虫・大気・土壌などを稼動前の実態調査として 2003年より開始、その後 2006年の本格稼動後は、工場の影響調査・記録に取り組んでいる。			
グループの 組織基盤・ 財政状況	決算/事業報告	あり	会員組織	あり
	会報など	あり	発行サイクル	年間 4 回
	会員・支援者数	250 名		
	年間の予算規模	100 万円前後		
	主な収入内訳	会費・カンパ 30 万円 事業 10 万円 助成 60 万円	主な支出内訳	調査費用 50 万円 学習・講演 20 万円 印刷・通信 20 万円
主要メンバー 役員など	共同代表 濱田光一、伊東明子 事務局 雨宮一好 会計 雨宮敬子 運営委員 中西四七生、安藤隆、下向辰法、古澤省吾、後藤進、中西千恵			
協力を受けて いる研究者 (*1)	中田隆一氏<気象> 近藤純正氏<気象> 関口鉄夫氏<水質> 瀬戸昌之氏<生態・水質> 中村敦夫氏<環境> 佐々木研一氏<大気> 故 二重作豊氏<電子顕微鏡分析> 上記のほかに約 30 名以上の研究者や専門家の協力を受けている			
協力して活動 している 団体など(*2)	日の出の森を支える会・日の出の森・水・命の会、STOPエコセメント市民の会 青梅のごみと水を考える会、 高木基金とパタゴニアからは継続して助成を受けている			
その他 (自己PR・協力 要請等も可)	「活動は楽しく」と示唆してくれたポール・コネット氏の言葉を大切にして、自主的・自発的でそれぞれの特性を発揮できる活動ができるように心がけている。 メンバーの若返りを通して次世代への問題の伝達と活動の継承を現在の課題としている。 興味・関心のある方はぜひご連絡ください。			

*1 グループの役員など、恒常的に助言・協力を受けられる関係にある場合は◎印をつけ、役職や関係などを付記して下さい。(過去に助言・協力を受けたことがある、あるいは、今後依頼できる、という関係の研究者は、無印で記載して下さい。)

*2 特に密接な関係にある団体には◎印を付けて下さい。(必要なときに協力を頼める、頼んだことがあるという団体は無印で記載して下さい。)

参考文献・ウェブサイトなど

- ・ <http://www.011.upp.so-net.ne.jp/tamaaji/>
- ・ 「たまあじさいは見ていた」市民による環境調査報告書 2001年
- ・ 「局地気象のみかた」 中田隆一著 東京堂出版